

令和7年度 学校評価 青垣中学校パワーアッププラン

1 目標・方針

<p>中期的な学校運営の 目標・方針</p>	<p><b>【学校教育目標】『ふるさと青垣を愛し 自ら学び たくましく生きる 児童生徒の育成』</b> ～自ら学び 自ら鍛える 地域に誇れる 青中生～</p> <p>①生徒の自立に向けた確かな学力の育成 ②安心・安全な学校づくりの推進 ③地域とともにある学校づくりの推進 ④教職員が健康で生徒に向き合う環境づくりの推進</p>
<p>本年度の重点目標</p>	<p><b>【自立に向けた確かな学力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な推進体制の構築</li> <li>・授業改善（授業のデザイン）</li> <li>・キャリア教育実践研究充実事業（小中高）</li> <li>・学習習慣の定着</li> <li>・特別な支援が必要な生徒への学びの保障</li> <li>・望ましい学習集団の形成（言語活動の充実）</li> </ul> <p><b>【安心・安全な学校づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を支援する意識の徹底（集団指導と個人支援）</li> <li>・教職員が健康で生徒に向き合う環境づくりの推進</li> <li>・生徒の力による学校づくりの推進</li> </ul> <p><b>【地域とともにある学校づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高連携（小中一貫校、連携型中高一貫教育）</li> <li>・地域とのつながりの深化（トライやる・ウィーク、アントレプレナーシップ教育、ボランティア活動、コミュニティ・スクール等）</li> <li>・信頼される学校づくりの推進（相談体制や情報発信の充実）</li> </ul>

2 自己評価（達成状況）

A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
<p>学校運営</p>	<p>学校経営</p>	<p>家庭・地域連携 幼・小・中・高連携</p>	<p>A</p>	<p>①学校行事等の実施などにより、保護者が来校される機会を増やすとともに、相談体制や情報発信の充実を図る。 <b>【保護者アンケートより】</b> ▲「学校行事は適切であった」 R6:95% → R7:90% ▲「気軽に相談できる」 R6:81% → R7:74% ○「通信やHPで学校の様子をよく知ることができる」 R6:76% → R7:77% ○「生徒をよく理解し、適切な指導を行っている」 R6:74% → R7:77% ※学校が通常にも戻り来校される機会が増える中、家庭連携をより進めることができた。</p> <p>②地域人材の活用や積極的にボランティア活動に参加することなどにより、地域とのつながりを深化させ、ふるさと青垣地域の魅力を感じるとともに、自尊感情や自己有用感を高める。 ・地域に学ぶトライやる・ウィーク（2年生） ・『NPO法人佐治倶楽部』との連携によるアントレプレナーシップ教育（2年生） ・その他（手話教室、いずみ会の料理教室、地域行事（八宿まつり）でのボランティア活動など）</p> <p><b>【生徒アンケートより】</b> ○「自分にはよいところがある」 R6:82% → R7:90% ※青垣地域や他地域の方といきいきと活動する生徒の姿を多く見る事ができた。今後も地域の方のご協力を得て、生徒の自主的・主体的な活動を導いていく。</p> <p>③幼小中高の連携活動など異年齢とのつながりを深めることなどにより、好ましい人間関係を築き、進学時の環境の違いによるギャップをなくす。 ・6年生の中学校体験授業、校舎見学を対面で行った。（入学説明会を青垣小学校で1月23日実施） ・中高吹奏楽部合同演奏（地域行事・各校の文化祭で演奏） ・中高の体育大会、文化祭のボランティア役員で参加 ・小中高オープンスクールへの参加 ・こども園に中高吹奏楽部で合同演奏を実施した。 ※今年も特に小中の教科連携がなかなか取り組むことができなかつた。今後は、各校の担当者により連携にかかわる年間計画を明確にし、学習面での連携を進めていく。</p>
	<p>生徒指導</p>	<p>生徒の力による学校づくり</p>	<p>B</p>	<p>① 生徒の主体的・自治的な学級や生徒会づくりを進め、すべての生徒が活躍できる場面を実現することにより、自尊感情や自己有用感を向上させ、将来に夢や希望をもてる生徒の育成を目指す。 <b>【生徒アンケートより】</b> ○「学校に行くのは楽しい」 R6:78% → R7:87% ○「学校行事はクラスの団結や自分の力を発揮できる場になっている」 R6:93% → R7:96% ○「部活動は楽しく意欲をもって参加している」 R6:93% → R7:93% ○「先生には、よいことや努力したとき正しく評価してもらえる」 R6:95% → R7:95% ○「気持ちのよいあいさつが自分からできている」 R6:90% → R7:96% ▲「将来の夢や希望を持っている」 R6:70% → R7:65% ○「生徒会活動に積極的に取り組んでいる」 R6:94% → R7:94% ○「自分はクラスの役に立っている」 R6:70% → R7:73% (R5:67%) ※アンケートの結果が低下している項目があるが、おおむね高い値を示している。さらに学校が楽しいと思える生徒及び将来の夢や希望が持てる生徒の育成を目指し、生徒の力による学校づくりを進める。</p>
		<p>授業の工夫・改善</p>	<p>A</p>	<p>① ICTの積極的な活用や少人数指導を展開することなどにより、一人ひとりに寄り添う時間を確保するとともに、話し方・聞き方の工夫による発言しやすく安心して学べる学習環境をつくる。 ②学力向上委員会の定期的な開催や授業公開の実施などにより、生徒が主体的・協働的に学べるよう、授業の工夫改善に努める。 <b>【生徒アンケートより】</b> ○「先生はわかりやすいように授業を工夫している」 R6:87% → R7:98%</p>

教育課程	学習指導		<p><b>【保護者アンケートより】</b></p> <p>▲「生徒の学力向上に向けた授業の工夫や個に応じた指導を行っている」 R6:79% →R7: 72%</p> <p>※新たな課題に対応した人権教育の推進事業の指定 (R5~R6) を受けていることもあり、全教科において人権教育を大切に授業づくりを進め、授業だけでなく生活の場でも、生徒の人権意識を高める取組を行うことができた。さらに教員も人権意識について深く考え、生徒とともに考える取組を行うことができた。</p> <p>※学年単位など少人数の教員グループでお互い授業を評価する機会を設けることができた。</p>	
	学びに向かう力の育成	B	<p>① ICTの有効活用や対話（ペアトーク）（グループワーク）を重視した学び合い、見通しを持たせた授業展開等により、意欲的に学ぶ生徒の育成を図る取組を行う。</p> <p>② 礎チャレンジ、がんばりタイム、学習タイム等の継続的な実施、また読書活動の充実により基礎学力及び読解力の向上を図るとともに、目標を持って学習に取り組む姿勢を養う。</p> <p>③ 家庭との連携を図り、個別の学習支援等により、自学自走できる生徒の育成を図る。平日の家庭学習が1時間以内の生徒の減少を目指す。</p> <p><b>【生徒アンケートより】</b></p> <p>○「意欲的に授業に取り組んでいる」 R6:91% → R7: 94%</p> <p>○「朝読書や朝学習に積極的に取り組んでいる」 R6:95% → R7: 95%</p> <p>○「学習や生活について気軽に相談できる」 R6:76% → R7: 86%</p> <p>○「家庭学習を自分で計画を立てて勉強している」 R6:67% → R7: 74% (いいえ R6: 12%→R7: 9%)</p> <p>○「目標をもって家庭学習や自主ノートに取り組んでいる」 R6:71% → R7: 72%</p> <p>▲「家庭学習の時間（塾含む）」3時間以上 R6:7% → R7: 5%</p> <p>1時間～3時間 R6:65% → R7: 64%</p> <p>1時間以下 R6:26% → R7: 33%</p> <p><b>【保護者アンケートより】</b></p> <p>▲「お子さんは意欲的に家庭学習に取り組んでいる」 R6:63% → R7: 62%</p> <p>※学校の授業では、多くの生徒が意欲的に取り組んでいるが、家庭学習にはかなり課題が見られ、1時間以内の生徒を減少させることができなかった。目標をもって家庭学習に取り組んでいる生徒の割合は減少している。今後も個別支援や家庭との連携の見直し、さらにタブレットを活用（eライブラリなど）した学習支援が必要である。</p>	
課題教育	人権教育	多様性と調和	A	<p>① あらゆる活動を通して多様な価値観（違い）を認め、自他ともに大切にする人権教育を推進することで、学校での信頼づくりや居場所づくりをすすめ、いじめや不登校の未然防止を目指す。</p> <p><b>【生徒アンケートより】</b></p> <p>○「いじめなどでいやな思いをしたことがない」 R6:93% → R7: 93%</p> <p>○「クラスは楽しく居心地がよい」 R6:93% → R7: 93%</p> <p>※不登校生徒は昨年度より減少傾向にあるが、時差登校や別室登校など、個に応じた対応を行っている。そのため、多様な登校やオンライン授業の機会が確保できている。また人権弁論大会や平和講演会、さらに転入生への対応などさまざまな機会を通して人権教育を進めることができた。引き続き相談しやすい居心地のよい環境づくりを進めていく必要がある。</p>
	情報教育	情報モラル	B	<p>① PTAと連携した情報モラル講演会（弁護士による）の実施や生徒会によるスマホルール作りなどにより、スマホ（ゲーム）に依存する生徒や個人情報の管理が未熟な生徒を減らし、SNSによるいじめの未然防止に努める。</p> <p><b>【生徒アンケートより】</b></p> <p>▲「スマホやPCを1日あたりどれくらい使うのか」1時間以下・しない R6:34% → R7: 28%</p> <p>1時間～3時間 R6:48% → R7: 58%</p> <p>3時間以上 R6:17% → R7: 14%</p> <p>※普段から絶えずSNSの利用について注意喚起を行っているが、5人に1人が1日3時間以上SNS等を利用している現状を改善できなかった。未だにSNSを介したトラブルも起こっている。PTA主催の情報モラル講演会を実施したが、保護者の参加は少なかった。家庭への啓発を継続しながら、地道に生徒に向き合って指導していかねばならない。</p>

### 3 学校関係者評価

- ・学校評価（達成状況）はすべてBのところもAに近いと思います。
- ・学習面以外にも部活動や地域のイベントなどに積極的に参加してくれ地域でも頑張っている姿に感動しています。（例：八宿まつりの取り組み）
- ・大人になる大切な時期なので学習だけでなく生活指導もよろしくお願いします。（今後も学校・家庭・地域連携を強化）
- ・学校経営のなかで、②生徒アンケート結果「自分にはよいところがある」と考える割合が高くなっていることは生徒の自己肯定感の高まりがうかがえるようで好まし結果と考えます。一方で保護者が「気軽に相談できる」割合が減少しているところが、気になりました。
- ・青垣中学生は挨拶もしっかりしてくれ、礼儀正しい印象ですが中には学校に行きにくい生徒がいることも聞いています。思春期でもありSNS等大人から見えにくい部分が多くあると思いますが今後も保護者と連携を図っていただき子どもたちのすこやかな成長に向けてご指導よろしく願いいたします。青垣中学校の生徒はほとんど素直だと思いますので先生方の接し方次第でもっともっと成長することを期待しています。
- ・地域によっては中学生がいない地域もあるので情報が少ないのでもっと情報の発信、中学校での行事、地域のイベントに招待をすればよいのではないかと。
- ・自己肯定感が高い生徒が多いことは、人権意識が高いとも言える。背景には幼・小・中・高と連続した取り組みや地域との連携（連動）があるように思える。学校生活が楽しいと思える基盤になっている。※「自分にはよいところがある」90%にアップした。
- ・「学校に行くのは楽しい」の回答が87%にアップした事が全てを物がたっていると思います。（令和6年度は78%）
- ・スマホやインターネットとの付き合い方が年々複雑になっている気がします。ゲームなどのルール作りについても、大人が手本となるような活動を展開することも必要だと思います。学校評価（達成状況）はAの項目は継続して頂ける事を期待しています。
- ・学習のモチベーションもSNSの制限も「なりたいたい自分になるため」なら少しはできるのではと思う。また、将来を考えさせる時間を増やす成功者の話を聞かせるなど「こんなに良いことがあるよ」という、導きで、動いてくれたらと思います。
- ・授業のわかりやすさが、学校へ行く楽しさに繋がっているのではないのでしょうか。これからも生徒一人一人の個性を大切に、楽しく学べる学習環境に努めていきたいと思っています。

- ・積極的にボランティア活動に参加して、地域とのつながりを持つことは、受け入れる地域にとっては、とてもありがたいことです。しかも若い力を借りることで、新しい発想や元気ももらい、これまで以上に地域が盛り上がります。地域の方も参加してくれた生徒を一人の大人として扱い、成果をたたえ、皆で喜び感謝を表すことで、生徒の自尊感情や自己有用感を高めることにつながると思います。このことは、生徒自身が自分の良さを見つめることにもなり、将来の夢や希望につながっていくのではないのでしょうか？今後も積極的に地域との連携に取り組んでいただくことを望みます。
- ・青垣中学校では、学習面だけでなく、地域交流や異世代交流、直接体験を取り入れた教育活動が積極的に行われている。これからの取り組みは、生徒ひとり一人の視野を広げ、学びの意欲を高めるだけでなく、人とのつながりや社会性を育むうえで大きな役割を果たしている。実際に、生徒たちが生き生きと活動している様子から、こうした体験的な学びが確かな成長につながっていることが伝わってきた。
- ・学校評価については妥当だと思いますが、保護者の評価については多少低く感じるので、保護者に対して情報発信や情報伝達を考えていただければと思います。
- ・「先生はわかりやすいように授業を工夫している」が98%というのは先生方お一人お一人の努力の賜だと思います。生徒・保護者・学校のチームワーク構築にさらにご尽力され、より素敵な青垣中学校を目指していただきたいと思います。達成状況がBの項目の原因分析をより明確にして、より具体的なアプローチを期待します。
- ・全体的に評価については妥当だと思いますが保護者の評価が多少低く感じるので、保護者に対しての伝達手法を考えていただければと思います。
- ・学びに向かう力の育成や情報モラルについては評価通りBと思います。家庭学習の1時間以下の生徒を減少させるためあえて学習時間の取り組みを競争させてやってみるかどうか？（評価は礎チャレンジ等で確認）情報モラルは学習使用分を除き2時間以下が目標だと思います。

#### 4 次年度の改善の方向性

**【学校経営】** 学校運営協議会・青垣こどもを育む会との連携（連動）をさらに深め、地域との連携をもとに氷上西高校との連携型一貫教育及び青垣地域幼小中一貫教育の一層の推進を図り 18 年間を見据えてカリキュラムの編成を拡大させていく。

**【生徒指導】** いじめ対応基本方針に基づき、いじめの無い学校づくりを推進するとともに、児童養護施設「睦の家」の生徒を受け入れる集団作りを推進する。秩序ある落ち着いた学校生活を送れるようにする。今後も2年生については少人数での対応を図っていくとともに、自治活動との連携を強化し、「自ら学び」「自ら鍛える」に焦点を当てた指導を推進していく。

**【学習指導】** 全教科で授業の工夫改善に取り組み、生徒の確かな学力の向上を図り、礎チャレンジ、がんばりタイム、学習タイムの継続的な実施の取り組みを継続するとともに、二極化が進む中、ICTの活用による個別に最適化した学習の実現と家庭学習の充実を目指した指導を進めていく。

**【人権教育】** 人権教育は学校教育の根幹をなすものであり、来年度以降も生徒自身が自分事として考え、他者を思いやり、自分自身が加害者や被害者にならないために、今日的かつ身近な課題を取り上げて、体験的に実施していく必要がある。またそのためにも、教師自身が日々人権を話題にして、自己の人権意識や人権感覚を高め、知識を深めていく必要がある。

**【情報教育】** 職員間でのタブレットを使った授業や活用内容などの情報交換が増えていったと感じる。また、授業でタブレット使用や電子黒板を利用してみようという先生方も増えた。

令和8年3月5日

学校名 丹波市立青垣中学校  
校長名 井本 健吾